

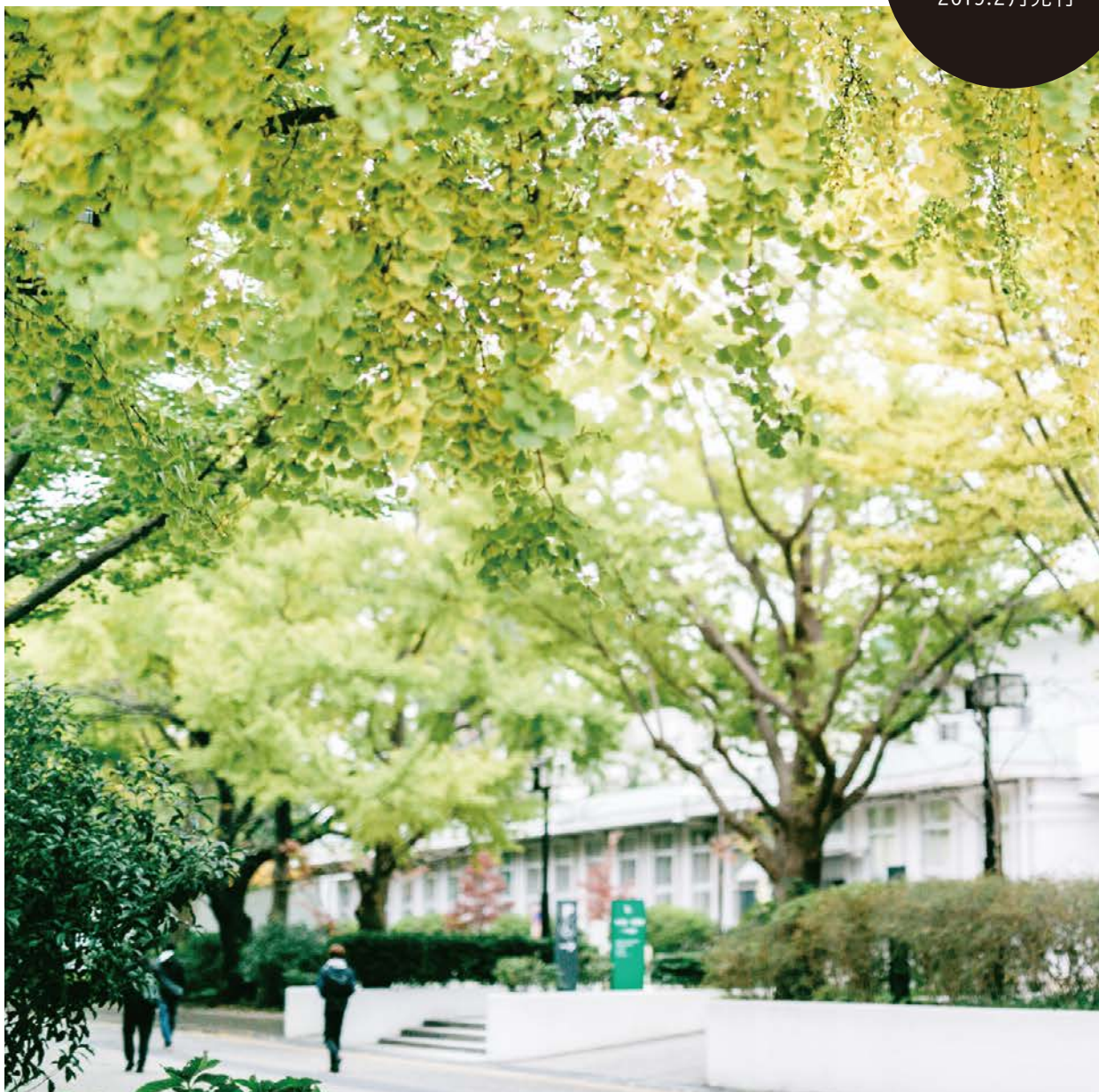
YCU

横浜市立大学

地域貢献通信

Vol.2

2019.2月発行



発行部署

公立大学法人横浜市立大学 地域貢献センター
〒236-0027 横浜市金沢区瀬戸22-2 金沢八景キャンパス
TEL:045-787-2449
Mail:chiiki@yokohama-cu.ac.jp



市民に 親しまれる 大学として



横浜市立大学は、研究・教育・医療の力で
地域に貢献します。

この通信では、市大が取り組むさまざまな
地域貢献活動をご紹介します。

地域貢献センター長からのメッセージ

「国際都市横浜と共に歩み、教育・研究・医療分野をリードする役割を果たすことをその使命とし、社会の発展に寄与する市民の誇りとなる大学を目指す」というYCUミッションの下、都市の課題に寄り添い、地域が求める人材の育成、研究・知的資源の社会還元を実現するのが本学の地域貢献センターです。本センターは、医療、子育て、地域活性化やボランティア支援などを担当する「都市政策部門」と公開講座等を企画・実施する「生涯学習部門」とで構成されています。引き続き、地域社会のシンクタンクを目指して取り組んで参ります。

地域貢献センター長 中條 祐介

市民向け公開講座

エクステンション講座や市民講座など、市民が参加できる講座を提供しています。語学をはじめ、文学、経済、自然科学、医療など、幅広い分野で開講しています。



学術情報センター市民講座

毎年、所蔵資料を紹介しながら様々なテーマの講座を開催。2019年度は、「天皇の即位儀礼にみる地理認識」をテーマとしました。



ブラックジャック・セミナー

小・中学生対象の医療体験セミナー。2019年度は附属病院で、最新の医療機器やシミュレーターを用いた救急救命、皮膚縫合、胆のう摘出手術、電気メス手術、救助者を捜索する災害訓練などを体験しました。

木原生物学 研究所 市民講座

自然科学への学びのきっかけとして、身近にある自然から最先端の研究まで、幅広い分野の内容を取り上げています。



ボランティア 支援室

ボランティアのご依頼は下記まで

TEL:045-787-2444
Mail:voluntee@yokohama-cu.ac.jp

ボランティア支援室は、地域のニーズにワンストップで対応する学生ボランティアの窓口です。地域団体や公共団体からの依頼や要請を受けて、多くの学生がボランティア活動に参加しています。学生スタッフを中心に、地域が抱える課題を把握した上で、交流を通じて一緒に解決を目指す独自のプログラムの企画・運営もしています。



横浜の 「郊外暮らし」を 考える

空き家活用プロジェクト



2019年4月 国際教養学部・齊藤広子教授の「空き家活用プロジェクト」で「はまっこ郊外暮らし検討会」を立ち上げました。横浜「郊外」の魅力を活かした新しいライフスタイルを、空き家などを活用して実現していく方法を考える会です。検討会のメンバーは、市大教員、京浜急行電鉄、横浜市と、住宅、不動産業界の著名な専門家。産官学連携ですすめる取り組みです。

第1回検討会では、能見台周辺を歩き、まちの現状を視察しました。市大でまちづくりを学ぶ学生たちも、実習授業の一環として参加。第2回検討会では、若者が考える「まち」や「暮らし」について提案しました。背後には、学生たちの提案をまとめたポスターが掲示されています。検討会の委員に、グループで考えた学生ならではのアイデアをアピールしました。



地域拠点・並木ラボで開催した第3回検討会。並木地区のまちを歩き、地域でのまちづくりの取り組みや課題について意見交換しました。9月～12月には、新たな暮らし方を広く募集する「はまっこ郊外暮らしコンペ」を開催。コンペで集まったアイデアは、3月24日にシンポジウムで発表する予定です。



「まち保育」と 保育施設の 防災力強化

市大・神奈川区との協働事業



市大と神奈川区は、協働で保育・教育施設向けの連続講座「『まち保育』の理解と防災力強化」を開催。震災や豪雨などの災害時に助け合えるよう、保育施設と地域の「顔が見える関係づくり」を目指す取り組みです。連続講座は2019年6月～2020年2月までに全3回実施。市大国際教養学部・三輪律江准教授と、横浜国立大学の稲垣景子准教授がアドバイザーです。講座には、神奈川区内の保育園や幼稚園の関係者が集まりました。1回目の講座では、区内50以上の施設から約60人が参加し、

三輪准教授が「まち保育」の考えを講演しました。2回目の講座では、参加者は施設の規模や地域別でグループに分かれ、区の防災マップを囲みながら各施設が実施している災害への備えなどを話し合いました。この取り組みでは、防災力を高めるためのモデルケースとして、実際に2つの幼保施設の伴走支援も行っています。園で普段使っている「お散歩マップ」の見直しなど、保育士と一緒に取り組みました。3回目の講座は2月に実施し、伴走する園の取り組みについて発表する予定です。



子どもアドベンチャー 看護学科 「心の元気応援プログラム」で学ぶ



小中学生がさまざまな体験をとおして「働く」ことを考え、親子で子どもの夢を語る夏休み企画「子どもアドベンチャー」。この中で、2019年8月15日に看護学科 精神看護学が「心の元気応援プログラム」を開催しました。身体と心をケアする看護師の仕事と心の健康について、松下年子教授、田辺有理子講師、桐生敏行助教が講義とワークショップを実施。小学3年生から中学生まで90名と、その保護者が参加されました。ストレスの対処法やコミュニケーションについても学び、子どもも大人も勉強になるひと時となりました。



HUG Your Baby 育児支援活動

看護学科母性看護学で行っている「Hug Your Baby」は、これから子育てをするママ、パパ、ご家族を応援する活動です。2019年6月22日妊婦さんに向けた育児支援クラスを開きました。おくるみレッスンなど、これからの赤ちゃんの生活に役立つプログラムを行い、9名の方にご参加いただきました。

小学生と 「いのちの授業」

看護学科学生による「いのちの大切さ」を考えるための訪問授業。市内の小学校を訪れて、「自分たちが誕生した奇跡」を理解してもらいながら、いのちの大切さや、周りの人々への思いやりの気持ちの大切さなどを伝えます。2019年度は、横浜市立並木中央小学校の他、川崎市立藤崎小学校わくわくプラザで実施しました。



学生も教職員も活動いろいろ

救急医学教室 医療でまちを守る

市大救急医学教室(主任教授:竹内一郎)は、横浜市とも連携して救急・災害医療体制を作っています。救急医学教室では、多くの人が集まるイベント会場での有事にすばやく対応できるよう対策に取り組んでいます。「横浜マラソン」、「ラグビー W杯」、「アフリカ開発会議」など、地域で行われる様々なイベントでも医療体制に貢献しました。2020年東京オリンピック・パラリンピックでも横浜会場で医療班として参加する予定です。市内の医療機関や消防各所とも協力し、医療でまちを守る活動を日々続けています。



健康づくりができる 交流スペース 「ふらっとスペース なみき」開催

2019年11月看護学科地域看護学(代表:田高悦子教授)と横浜市富岡東地域ケアプラザの協働で、一人暮らしの高齢者の「閉じこもり」防止のため、「ふらっと」立ち寄り健康づくりや交流ができる地域交流企画として、並木地区の2つの公園で催しました。ロコモチェックやオーラルフレイルチェック、まちづくりコースの学生による「周辺地区の好きな場所調査」などが行われ、地域住民で賑わいました。



ボランティア支援室 学生スタッフ企画 5人制サッカー (ブラインドサッカー) 講習会&体験

2019年12月ボランティア支援室学生スタッフが、パラスポーツの理解を深めるため、地域の子どもから高齢者までに声をかけ「5人制サッカー(ブラインドサッカー)講習会&体験会」を開催。神奈川県唯一のブラインドサッカーチーム buen cambioyokohamaの方々に来ていただき、前半は講師による講演会、後半は体育館で参加者の方々に実際に目隠しをして体験してもらいました。



データサイエンス学部 xマクロミル 共同研究室を設立

2019年4月データサイエンス(DS)学部は、マーケティング調査会社「株式会社マクロミル」と、共同研究室を設立(共同代表:中谷朋昭・DS学部教授、西部君隆・マクロミル執行役員)。DS学部での研究をビジネスに生かすことや、学生の実践的な人材育成に活用していきます。

※写真はマクロミル社内にある、共同研究室の様子

財政解説(予算、財政に関する30秒解説)

「予算」「財政」という言葉を聞くとき、「難しい」「分からない」なんて感じている方も多いのではないでしょうか。みなさんの生活に密着して関わっています。ぜひ、「予算」「財政」という言葉を身近に感じてほしいです。横浜市立大学の東北大学の学生が協力して作成したページです。



黒木ゼミ、 市の財政 解説ページ作成

国際商学部・黒木淳准教授が、ゼミ生と共同で、横浜市の財政を分かりやすく伝える「財政解説(予算、財政に関する30秒解説)」を作成。マスコットキャラクターも登場し、市の財政や予算のこと、税金の使いみちなど分かりやすく説明されています。

※画像は市HPから一部抜粋



東京2020に向けて… 学生の「スポーツ ボランティア講習会」

2019年5月6日東京オリンピック・パラリンピックに向けた機運醸成のため、横浜市立大学医学部学生団体YDCと、ボランティア支援室学生スタッフVolunchによる「第2回スポーツボランティア講習会」を開催しました。スポーツボランティアの現場での突然の病気やけがに対する必要な知識や応急手当の講座で、市大生だけでなく地域の方とも交流する活動でした。ボランティアと医療の関わりから、簡単な応急処置法まで、一緒に考え体験しました。



小・中学生への 学習支援・相談など 学生が寄り添う ボランティア活動

横浜市子ども青少年局の事業で実施している各区拠点における学習・生活支援ボランティア活動です。各区に登録している、生活保護世帯や生活困窮状態にある家庭の小・中学生等に対する、学習支援や生活支援、相談対応など、コミュニケーションを大切にする活動に市大学生が取り組んでいます。



～うみ博～ SDGsとマイクロ プラスチック問題を 考える

SDGsをテーマに開催した「海洋都市横浜うみ博2019」(7月20～21日参加者23,000名・うみ協議会理事 理学部教授 大関泰裕)では、木原生物学研究所とコラボする展示を行いました。生命環境コース「資源生物利用学」受講生による「麦わらストローで明日のうみを考える」ワークショップでは小学生にクイズで海洋ゴミ問題を知らせました。プラスチックカップを再利用したキーホルダーの工作と研究所の小麦からできた「麦わらストロー」の配布により、海は陸の環境と深い関係があり、その両方を守ることが大切!とメッセージを伝えました。



学生サークル 「三浦半島研究会」 三浦半島の 魅力を伝える さまざまな活動を実施

学生サークル「三浦半島研究会」は、三浦半島の土地と生涯を通じた関係を持つ人を増やし、学生の三浦半島への「Life Time Value」を向上させる活動を行っています。2019年度は、三浦半島の調査・研究や、現地の生活を体験しながらの取材活動、農業・セーリングなどの体験、また浜大祭では三浦半島の魅力周知のための「やさしい餅」販売などを行いました。



木原生物学研究所産 の大麦で クラフトビール製造

木原生物学研究所で栽培した大麦が使用されたクラフトビール「KORN MUTTER(コルンムッター)豊稔のしるし」を製造販売。2017年に発売された「KORN MUTTER(コルンムッター)麦畑の精霊」に続く第2弾。厚木市の醸造会社サントガーレンの協力を得て、木原生物学研究所の舞岡圃場で収穫した大麦品種ミカモゴールドを原料とし、みらい麦畑計画の研究プロジェクトの一環で醸造したビールです。

第7回アフリカ開発会議 学生ボランティアの活躍

2019年8月28日～30日、パシフィック横浜をメイン会場として開催された「第7回アフリカ開発会議」では、外務省からの依頼を受け、100名の市大生がボランティア活動で貢献しました。外務省からボランティアの依頼を受け、106名の学生が活動。活動の内容は多岐にわたり、司令塔であるロジ室総括や総務班の事務補助をはじめ、本会議場での議場支援や通訳・通訳補助、レセプション等を仕切る行事班、サイドイベントやバイ会談、ビジネスイベント支援、各国代表の配偶者をサポートするプログラムの担当等に分かれ、24日から1週間と、27日から4日間のそれぞれの日程で活動しました。





伝統と革新の、その先へ
1928 - 2028

YCU100 募金へのご支援のお願い

横浜市立大学は2028年に創立100周年という大きな節目を迎えます。

これから100周年に向けて3つのプロジェクトを推進するため「YCU100募金」を設け、皆様からのご寄附をお願いしております。

世界で活躍する優れた人材の育成や新たな研究創生、キャンパス環境整備を実現するためには皆様のお力添えが欠かせません。

大学発展のため、ぜひ皆様のお力をお貸しください！

お申込み・お問い合わせ

基金担当

TEL:045-787-2447

mail:kifu@yokohama-cu.ac.jp



大学の施設を利用できます



市大の施設は卒業生や一般の方々にも一部を開放しています。
(※有料の場合あり)

- 図書館（金沢八景キャンパス学術情報センター、福浦キャンパス医学情報センター）
- 市民交流プラザ(いちょうの館)
- プール(開放日は大学ホームページをご確認ください)
- 金沢八景キャンパス体育館・ホール・教室
- 福浦キャンパスグラウンド・ホール等

詳しくは大学ホームページより

お問い合わせください。

<https://www.yokohama-cu.ac.jp/citizens/>



地域企業の皆さまとも連携しています

